

学校だより

よう
遙
よう
遙

目指す生徒の姿『未来を切り拓く生徒』 教育目標『自律 貢献 創造』

新潟市立新潟柳都中学校
令和5年11月9日発行TEL 025-228-6547
FAX 025-228-0985
E-mail

j305niigataryuto@city-niigata.ed.jp

創立10周年記念式典・講演会・合唱祭



10月29日(日)、新潟柳都中学校 創立10周年記念式典、記念講演会、記念合唱祭が行われました。記念式典の中で、生徒会長の遠藤文太さんがこれまでの10年を振り返るとともに、これからの10年を見据え、新潟柳都中学校の目指す姿について想いを語ってくれました。また、10周年を記念し、新潟柳都中学校の「ゆるキャラ」を披露しました。ゆるキャラは生徒からデザインを募集し、全校生徒の投票により、2年1組の小林紗佑希さん考案の「猫柳さん」に決定しました。今後、ゆるキャラは様々な場面で活用していく予定ですのでご期待ください。

記念講演会では、旧舟栄中学校の卒業生であり、現在、株式会社ヒカリ食品代表取締役の中山 大 様を講師にお招きし、「これからの時代を生きるみなさんへ」という演題でお話いただきました。プロ野球の新潟アルビレックスBCで投手をしていた経験や会社員をしながら外部の会社を買取り、経営しているご経験など、豊富な人生経験をもとに、中学生に分かりやすく、生きる上でのヒントをたくさんお話してくださいました。



記念合唱祭では、吹奏楽部によるオープニング演奏からスタートし、各学年合唱、全校合唱を披露しました。どの学年も美しいハーモニーと迫力ある歌声で観衆を魅了し、涙を流されている地域の皆様や保護者の方もいらっしやいました。記念式典を締めくくる素晴らしい合唱をつくってくれた生徒の皆さんに心から感謝します。ありがとうございました。

行事を大成功に導いてくれた生徒の皆さんの「しもまち」と「新潟柳都中学校」を愛する気持ちとパワーでこれからも地域と学校を盛り上げてくれることを期待しています。

『10周年記念式典 生徒会長のことば』

新潟柳都中学校は、開校から十年がたち、多くの先輩方がこの学び舎から巣立られました。今日をむかえるにあたり私は、先輩方の歩んできた歴史を、校歴室や生徒会室にある資料で調べてみました。初代から九代目まで、工夫を凝らした数々の取り組みや伝統にふれることで、それぞれが今年度まで繋いできた思いを再認識することができました。受け継がれてきた伝統をさらに発展させていかなければならないと、身の引き締まる思いです。

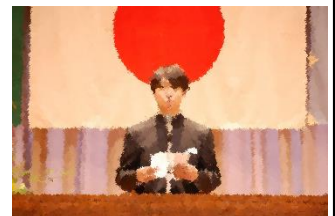
さて、十周年という節目の年をむかえた今、これからの新潟柳都中学校には何が必要なのでしょう。私は、「絆」と「挑戦」ではないかと考えました。

今年度、私は生徒会長として様々な行事に携わってきました。中でも、体育祭での光景が今でもはっきりと目に焼き付いています。それは、全校生徒が競技や応援、神楽を通して、敵味方問わず、互いを心の底からたたえ合う姿です。このような風土は、新潟柳都中学校が、他校に自慢できる良さの一つであり、誇りです。これまでに培われてきた「絆」を、友人や学校のみならず、しもまち全体へ絆の輪として広げていきたいです。

また、これまでも今年も、生徒会では様々な挑戦をしてきました。例えば今年、10年続いてきた05神楽のかけ声を10周年版としてアレンジしました。また、全校種目を立案し、全校生徒や先生方の協力のもと、ディフェンス玉入れとして実践できました。これまでの慣例を踏襲せず一から考えることは、一筋縄ではいかないことも多くありましたが、やりたいことを叶えられたときの達成感や感動は忘れられません。失敗を恐れずに挑戦し、新しい価値を見出したり、創造したりし続けることができる新潟柳都中であり続けてほしいと願っています。本日の合唱祭でも、初めての学年合唱や全校合唱を披露しますので、ぜひその姿を見ていただきたいと思います。

そして、その活動の傍らで、私たちのそばには温かく声援を送ってくださる保護者や地域の皆様の姿がありました。いつも私たちを近くで支えていただき、本当にありがとうございます。

これからも新潟柳都中学校が誇れるような財産を創っていきたくです。私たちの力を伸ばせる学校、地域と共生しながら多くの人と高めあい貢献できる学校、しもまちに根ざした校風とともに創造性に溢れる活気のある学校、未来に向かって歩み続ける学校となることを願って、生徒会長のあいさつとさせていただきます。



『合唱祭を振り返って』 合唱祭実行委員長

今年度の合唱祭は、10周年の節目として様々なものが変わっていました。例えば、昨年度まで行われていたクラス合唱が全校合唱になったことです。全校合唱をするにあたり、選曲も全校生徒の意見を取り入れました。最初は、初めての試みに不安そうな人もいましたが、練習は和やかな雰囲気につつまれていました。

全校が集まり練習ができたのは1時間しかなく、その貴重な1時間を私は参加することができませんでした。ですが後日、先生から全校合唱の映像を見せて頂きました。その時一人一人が真剣に歌う姿を見て、みんなが協力している姿勢に感動しました。

本番では、保護者の皆様がいることもあり、緊張している生徒もいました。全校で一つの歌を合わせるのは少し難しかったけれど、歌っている時に声がそろってきて、改めて柳都が誇れる絆を感じました。

私は実行委員長をやってみて、大変だったことも辛いこともあったけれど、一度しかない10周年合唱祭が成功できて良かったです。

『合唱祭を振り返って』 合唱祭副実行委員長

僕自身、学級合唱がなくなって全校合唱になったと聞いた時、楽しみだと思った反面、不安もありました。というのも、全校合唱は今年が初めてで、全校で音を合わせられるのかも分からなかったのです。

正直、最初は練習をダラダラやってしまう人がいたり、音程が合わなかったりしていました。それは全校合唱だけでなく、学年合唱でも同じでした。でも、合唱祭が近づくにつれて、みんなが真面目に、そして段々と曲の完成度も高まりました。それと同時に、学年で「最高の合唱祭」を創り上げることができました。

最後に、この合唱祭は、僕たち実行委員や学年委員の力だけでは創り上げることはできなかったと思います。全校生徒の皆さんの協力があってこそこの10周年記念合唱祭だったと思います。率先してみんなを一つにまとめてくれた実行委員や学年委員の皆さん、そして、それに続いて頑張ってくれた指揮者、伴奏者、そして全校生徒のみなさん、本当にお疲れ様でした。

『合唱祭を振り返って』 1学年合唱担当

僕が実行委員になったとき、初めは、みんなが指示を聞いてくれるかとても不安でした。練習のときは実行委員だけでなく、パートリーダーや学年委員の人が手伝ってくれたおかげで、しっかりと練習することができました。思っていたよりも練習時間が少なかったのが心配でしたが、本番では、みんながしっかりまとまって、きれいな声で歌えたので良かったです。終わってから、家族や先生など、たくさんの人に「すごかった」「良い合唱祭だった」と、言ってもらえてうれしかったです。僕は多くの人が支えてくれたおかげで、合唱祭を成功させることができたと思ったので、これからは、リーダーだけに任せずに、僕も声を出して、リーダーを支えていきたいです。



『合唱祭を振り返って』 2学年合唱担当

今年の合唱祭で僕は、学年委員として放課後の学年合唱練習を担当しました。みんなをまとめるのは難しいと感じました。また、今年は昨年とは違うことがたくさんあって、不安がいっぱいありました。何をしたら成功するのか、どうしたらいいのかが分からなくて、迷うこともありましたが、でも学年委員の仲間や2年生の他の仲間が助けてくれました。このことから、協力することの大切さを学びました。学年合唱も最初は歌に自信がなくて、観客に感動を与えられるか心配でした。しかし、練習を重ねるごとに、声も出るようになり、強弱をつけてそろえることができるようになり、観客に感動を届けられる歌にすることができました。この合唱で学んだことや経験したことを、今後の活動に生かしていきたいです。



『合唱祭を振り返って』 3学年合唱担当

私たちの学年は、とても明るく、元気です。ですが、他の学年に比べてとても人数が少ないです。そのため、最初はあまり声が出ず、不安でした。特にソプラノやアルトは人数が少ない上に音程がとても高かったり、つられないことで精一杯になったりしていました。ですが、学年の一人一人が気持ちを一つにして一生懸命に練習をしました。練習を見ると、歌うたびに毎回成長が感じられ、不安よりも期待の気持ちが大きくなりました。学年練習のとき、学年委員が指示を出さなくても自分から動こうとしたり、声を掛け合ったりして、合唱祭を通して学年の成長が感じられました。

中学校生活も残り少ないですが、このメンバーで悔いなく楽しみたいです。そして、全員が笑顔で卒業できるようにしたいです。

